スイッチとうおん 特別版２

ずっと忘れない大切なもの

— Graduation day —

令和３年度の東谷小学校卒業生の４人。旅立ちの日を迎える彼らの目線は、しっかりと明日を見据えていた。

1

4

3

2

1_ 空へと掲げる卒業証書／2_ 卒業生から記念品を贈呈する一幕／3_ 卒業生へはなむけの言葉を贈る松本校長／4_ 共に学び、共に遊んだ卒業生に向けて感謝の気持ちを伝える在校生

3月24日、東谷小学校で卒業式が行われ、4人の卒業生が東谷小学校から巣立った。卒業式で松本祐子（ゆうこ）校長は卒業生にはなむけの言葉を贈った。

「ご卒業おめでとうございます。胸を張って入場してきた皆さんの堂々とした姿、卒業証書を受け取った皆さんの真剣な眼差しに6年間の成長と中学生になるための自覚が表れていますね。皆さんの過ごした日々を振り返ると1年ごとに逞しさを増し、学校を支えるリーダーに相応しい力を蓄えていったことを感じます。

卒業生の皆さん、いよいよ旅立ちの日を迎えました。東谷小学校で学んだことに自信と誇りを持ってください。また、温かく見守ってくださっている家族やふるさと東谷の方々への感謝の気持ちを忘れず、これからも心を磨き続けてください。そして自分の道を力強く切り拓いていってください。私たちも応援しています。皆さんの未来がたくさんの幸せな出会いに恵まれ、明るく心豊かなものになることをお祈りしています」

松本校長から卒業証書が一人ひとりに授与された後、4人の卒業生は東谷小学校で過ごした6年間を振り返る。

「平成28年4月8日、ドキドキ、ワクワクしながら門をくぐった入学式。あの日から6年。今、たくさんの思い出が蘇ってきます。地域の方を見習い、ふるさと東谷の伝統を引き継いだ田植え、稲刈り、勝利を目指してチーム一丸となって協力した運動会、自己ベストを目指してバトンを繋いだ陸上記録会、見る人に思いが伝わるよう工夫した学習発表会、目で見て学び平和の大切さに改めて気づいた修学旅行、どんなときも仲間と共に乗り越えてきました。6年生として、東谷小学校の一員として全力で努力し、挑戦し続けてきました。苦手なことにも進んで挑戦することの大切さ、最後まで努力し続ければ必ず実を結ぶということ、みんなで力を合わせればどんなことも成し遂げられるということ、私たちは多くの人に支えられて生きているということ、今生きているということの素晴らしさ、たくさんのことを学びました。私たち4名は116年の伝統に輝く東谷小学校を卒業します。優しく、時には厳しく指導してくださった先生方、いつも温かく見守ってくださった地域の方々、いつも励ましてくれた家族のみんな、私たちはたくさんの方々に支えられ、今日卒業の日を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。私たちは、輝く明日に向かって今羽ばたきます。さようなら」

式終了後、最後の学級活動を笑顔で過ごした卒業生。それぞれが6年間の思い出を振り返りながら、両親に感謝の気持ちを伝えた。

また、東谷小学校は、地域との関わりが深い。学校行事などで普段から関わっている地域の人たちによる見送りが2年前から始まった。地域の人たちの手書きの横断幕は、東谷小学校の子どもたちへの愛情を感じる。卒業生は、先生、在校生、家族、そして地域の人たちに見守られながら、満面の笑顔で花道を通り抜けた。地域の人たちからは、「コロナ禍で制限されることも多かったここ数年。最後は華やかに卒業生を見送ってあげたい。さまざまな行事で関わってきた子どもたちのことは、今も、これからも見守っていきたい」と話す。

卒業生の旅立ちに涙を堪えきれない在校生の背中を優しく撫でる卒業生。優しさとふるさと東谷への誇りを胸に、新たな一歩を踏み出した。

7

6

5

10

9

8

13

12

11

5_ 泣いている在校生に優しく声を掛ける卒業生／6_ 両親に感謝の気持ちを伝える／7_ 最後の学級活動は笑顔で／8_ 地域の人からもらった特大クラッカー／9_ 地域の人たちが作ってくれた横断幕／10_ 笑顔で見送る在校生／11_ 園児も見送る／12_ 卒業生を見送る地域の人／13_ 見送りに笑顔が溢れる／14_ 地域の人に見守られながら学舎を去る

14